※令和３年度以前入学生用

学校番号	3021

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「高等学校　改訂版日本史Ａ　人・くらし・未来」（第一学習社）						
副教材等	「学習事項の整理と作業　改訂版　日本史Ａノート」（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史という時代の流れのなかで、社会の変化の様子をみる。
・歴史を背景とした世界の国々の諸事情をふまえ、現在の日本のあり方を考える。

２　学習の到達目標

我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とするわが国の歴史に対する関心と問題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き、平和的・民主的な社会を形成する責任を自覚している。	歴史の展開から課題を見出し、わが国の生活・文化の特色を、世界史的視野に立ち多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ、公正に判断し、その過程や結果を適切に表現している。	歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、効果的に活用している。	わが国の歴史の展開と生活・文化の特色について基本的事柄を理解し、その知識を身につけている。
評価方法	授業態度 提出物	定期考査 提出物	定期考査 提出物	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	近代国家の形成と国際関係の推移	・近代への胎動 ・明治維新 ・国際間家の推移と近代産業の発展 ・近代の追及① 　現代に残る風習や民間信仰にかかわる題材から課題を設定して、情報の収集や調査をおこなう。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○	○ ○ ○ 	a:欧米諸国の接近に伴う東アジア世界の秩序の動揺、開国に伴う政治・経済・文化の変化について、関心をもって取り組めたか。 b:欧米諸国の接近と開国に伴う変化の歴史的意義について多面的に考察できたか。 c:課題を設定し、適切な情報の収集や調査をおこなったか。 d:幕末から近代国家確立までの日本の対外関係、政治体制・経済状況を理解できたか。	授業態度 提出物 定期考査
2	両大戦をめぐる国際情勢	・第一次世界大戦と日本 ・第二次世界大戦と日本 ・近代の追及② 　学校や地域の歴史に関係するものを課題に設定し、情報の収集や調査をおこなう。	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○	○ ○ 	a:両大戦間における世界的な民衆運動・民族運動の展開、世界恐慌などの経済的危機における各国の対応などについて意欲的に追求したか。 b:歴史的過程としてのこの時代の特色を多面的に考察し、公正に判断できたか。 c:身近な学校・地域におけるこの時代の歴史的資料を収集し、調査できたか。 d:ブロック経済・ファシズムの台頭など、民衆運動・民族運動などの歴史的な展開を理解しているか。	授業態度 提出物 定期考査

※令和３年度以前入学生用

3	現代の日本と世界	・日本の再出発 ・独立後の政治と経済の発展 ・現代の日本と世界 ・現代からの探究 　現代の日本がかかえる諸課題を追求し、成果をまとめて発表する。	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	 ○	○ ○ ○	a:現代日本の特色が形作られてきた経過の探究について意欲的に取り組んだか。 b:現代日本が抱える諸課題を見出し、歴史的・多面的に考察し、公正に判断して発表できたか。 c:有用な資料を収集し、活用できたか。 d:戦後の経済・政治の変遷、国際社会の変化に伴う日本の国際社会における役割を理解できたか。	授業態度 提出物 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。